

Q&A

インフルエンザ予防接種について

インフルエンザ予防接種	当院では本年もインフルエンザの予防接種を実施しております。ご希望の方は事前にお電話又は受付にてご予約下さい。ワクチンについて以下簡単にまとめましたのでご参考にしてください。ご不明な点などございましたら遠慮なく医師にお聞きください。
インフルエンザってなんですか？	インフルエンザはウィルスによる感染が原因でおきる病気です。一般的には冬場に流行しますが、新型インフルエンザ等は夏場でも流行いたしました。突然の熱、寒気、倦怠感、筋肉痛、咳、咽の痛みなどの症状がでます。通常1-7日間で治りますが、老人または慢性の病気がある人は肺炎などの合併症が出る事があります。また小児では脳炎、脳症が希におきます。
インフルエンザはどのように診断しますか？	上記のように「かぜ」とよく似た症状が多いので、確実に診断するのが難しいこともあります。鼻、喉より綿棒で採った検体にウィルスが存在するかどうか検査する方法もありますが、検査実施のタイミングによって実際インフルエンザに罹っていても陰性に出る事もありますので、症状等を総合的に評価し、診断します。
今年のインフルエンザワクチンはどのようなワクチンですか？	本年のワクチンは新型と季節性の混合ワクチンで昨シーズンと同等の内容で、新型A(H1N1)、季節性A(H3N2)、とB型の混合です。
インフルエンザワクチンは誰がうければいいのですか？	当院では生後6ヶ月の全てのかたに接種をお勧めしております。慢性の病気（肺の病気、心臓病、糖尿病など）をお持ちの方、またそのような方と生活されてる方、乳幼児・小児、高齢者、妊婦、医療施設で働く方などは特にお勧めします。
ワクチンの効果は？	インフルエンザのウィルスは毎年微妙に変わります。従って流行すると予想したウィルスをもとに作られたワクチンが必ず今年のウィルスに100%効くと言うことはありません。ワクチンをうったから今年はかからない、と言うことではありませんが、重症化・合併症等の確率を下げる効果はあると思われまます。
「鳥インフルエンザ」や風邪の予防には有効ですか？	鳥インフルエンザ (H5N1)は異なったウィルスによる病気なので効果は期待出来ないとされます。また一般的な「風邪」の予防には効果はありません。
インフルエンザワクチンは何時、何回接種するのですか？	原則として13歳未満は2回必要と言う見解が多いようです。13歳以上のかたは1回接種が良いと思われまます。当院では相談のうえ回数を決めるようにしておりますが、接種は12月までにはした方が良いでしょう。
ワクチンを接種できない人はいますか？	ワクチン製造の関係で卵のタンパク質が微量含まれているので強い卵アレルギーの方は接種しない方がいいでしょう。また、以前インフルエンザワクチンにアレルギー反応があった方、当日高熱のある方なども接種はさけた方がいいでしょう。
副作用はありますか？	一般的には副作用は稀で、接種部位の痛みが1-2日あるぐらいです。熱、筋肉痛、倦怠感などの全身反応は初めて接種された方の方がなりやすいようです。ワクチンに対してのアレルギー反応、神経系の副反応は極めて稀ですが、全くないとは言えまます。
接種の費用はいくらですか？	15歳以上は1回¥3,000、15歳未満は1回¥2,500です。1-15歳の世田谷区は区より1回¥1,000の助成があります（1-12歳は2回、13-15歳は1回分）。高齢者は¥2,250の助成があります。
インフルエンザに効く薬はありますか？	季節性インフルエンザ用の抗ウィルス薬は飲み薬、吸入薬、注射剤等いくつかあります。罹ってから48時間以内に使用すれば症状が出る日数を1日ほど減らす効果がありますが、それ以降は効果は無いようです。殆どの場合、もともと健康な人は薬を服用しなくても問題なく回復します。また、抗ウィルス薬の服用にてインフルエンザに合併する肺炎、脳症などを予防できると言う確固たる証拠はありません。副作用も希にあり、最近、薬への耐性を持つウィルスの出現が報告されているので使用に関しては慎重に判断する必要があります。